



TITLE:

四つ葉と二つ葉のクローバー

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 四つ葉と二つ葉のクローバー. くろしお 2017, 36: 23-23

ISSUE DATE:

2017-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227762>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

四つ葉と二つ葉のクローバー

Shin KUBOTA : Clover of which leaves are four or two in number

久保田 信

日本では明治時代以降に家畜飼料として導入されたものが野生化した帰化植物のクローバー（白詰草）*Trifolium repens* は、通常は3枚の葉を持つ。今回、4枚あるいは2枚の葉を持つクローバーを、2017年5月12日、長居公園内の大阪市立自然史博物館まで通じる地下鉄を上がった入口からの道路沿いにある植え込みを往復する過程で、1個体ずつ発見できたので報告する（図1・2）。これらは三つ葉の変異体であ

ろうが、その発現はたいへん稀と言われているため、四つ葉を見つけた人には幸運が訪れるという話もある。これら2個体が遺伝的要因で発生したものか、環境要因によるものかについては不明である。なお、5-8葉以上の葉を有するクローバーもあり、ギネス世界記録認定の最多数は56で、2009年に日本の岩手県花巻市の小原繁男氏が発見し、氏はさらに18、21、27、33枚葉も記録している。



図1 4枚の小葉を持つクローバー



図2 2枚の小葉を持つクローバー

（〒649-2211 西牟婁郡白浜町459）
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所